

# 精神看護学実習における学生の学び

高島文恵\*1

## はじめに

精神看護学実習は、対象者に応じたケアの実際を学び、看護体験を通して自己理解を深め、専門職としての看護師に求められる力を育むという意義がある<sup>1)</sup>。特に精神疾患を抱える対象者の場合、対人関係能力の乏しさから看護師を含む周囲の人的環境の変化を敏感に感じ取り、援助関係における関わりの自己洞察を求められる。また、学生にとって対象となる精神疾患を抱えた対象者の精神症状は外見からでは分かりにくく、状態の把握や看護実践やその実践の意図、根拠が見えにくい。そのため学生は、精神看護学実習の期間中に学習効果を実感しにくい傾向にある。

先行研究においては、最も学びが深まった内容は「患者のペースを尊重した関わり方」であり、次いで「レクリエーション療法」「患者との距離のとり方」「援助方法の理解」「自己理解」であった<sup>2)</sup>。

当校の精神看護学実習は、3年次に精神科病院で実施している。精神看護学の科目とし、1年次に精神看護学概論、2年次に精神看護学－基礎、精神看護学－実践を教授している。今回、当校の精神看護学実習において、実習目標に沿った学びが得られているか、また先行研究との差異があるのかを検討したので以下に報告する。

## 調査方法

### 1. 調査実施期間

2022年8月3日～2023年1月31日

### 2. 調査対象者

令和3年度当校保健看護学科4年生27名のうち、調査協力の文書と同意書を渡し、同意が得られた26名（女性25名、男性1名、年齢23.3±5.3歳）を調査対象とした。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1クール目の6名が12日間の実習のうち4日間は学内実習となったが、他20名の学生は臨地での実習を経験することができた。

### 3. データ収集方法・内容

同意が得られた当校保健看護学科4年生26名の、令和3年度精神看護学実習で学生が記載した「実習のまとめ」の記載内容から学生が学んだこと、考えたこと、感じたことに相当すると判断した記述を文脈に注意しながら抽出し、分析対象データとした。

---

\*1 玉野総合医療専門学校 保健看護学科

#### 4. 調査方法

まず、抽出したデータを複数の教員がそれぞれの記述内容を類似性のあるものに分類し、コード化した。続いて内容の抽出度を高めるために、コードの意味内容ごとにサブカテゴリー化した。カテゴリー化の妥当性を高めるために質的研究の経験者 1 名の指導を受け、分析を行った。

#### 5. 倫理的配慮

対象となる学生に対しては、調査の目的や内容、データは個人が特定できないように匿名化した上でコード化しデータ処理を行うこと、研究協力は自由に拒否することができ、その場合においても不利益を被らないことを保証する旨を説明し、書面にて同意を得た。また、データは ID 設定済みの USB に保存し、得られたデータの電子媒体及び紙媒体は、研究責任者の責任の下施錠されたキャビネットに保管した。

本調査は、玉野総合医療専門学校の承認（研究計画番号：2022004）を得て実施した。

### 結果

学生の実習記録から学びの記述をした結果、129 コード、24 サブカテゴリー、12 カテゴリーが抽出された。カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを「 」として示す。学びのカテゴリーの内容は【疾患を理解するための知識の活用】、【信頼関係形成の技術】、【リハビリに必要な支援】、【多職種連携の実際】、【精神科における安全管理】、【地域生活を支援するために必要な社会資源の活用】、【精神疾患に対する正しい理解】、【看護観】、【再発予防に必要な看護】、【権利擁護】、【環境としての看護師】、【家族を含めた看護】であった（表 1）。

表 1 精神看護学実習の学び

| カテゴリー           | サブカテゴリー | コード   |
|-----------------|---------|---|
| 疾患を理解するための知識の活用 | 治療内容の理解 | 薬物治療ももちろん大切な治療  |
|                 |         | 症状安定のためには、継続した服薬管理が必要   |
|                 |         | 作業療法での「中庭活動」「アロマ活動」「ストレッチ活動」をすることにより、患者自身の精神状態の変化が起こり、様々な効果が得られる  |
|                 |         | 作業療法においては、気分転換や覚醒の意味あいがある   |
| 症状の観察           | 観察      | 看護師という存在は治療の一部であり、安心して生活を送れるための精神安定剤になっている                        |
|                 |         | 幻聴に対して、患者が不穏な様子はないか、苦痛を生じてないかを観察<br>日々の観察の中で、些細な変化においても1つ1つに意味がある |

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
|                                   | 患者さんの疾患の症状や特徴を学習したうえで関わる   |
| 自己洞察の重要性                          | 自分を客観視する   |
|                                   | 自分自身の発言・態度・対応が相手にどう影響を与えたのかを把握                                       |
|                                   | 自己開示することの重要性   |
|                                   | 自分が迷ったことやできなかったことなどの反省点をなぜ自分ではできなかったのか、今後どうしたらいいのかを振り返り              |
|                                   | 本当に患者さんが必要としている関わりは何かということを日々振り返りながら、患者さんの求めている支援をしっかりと提供できるように考えていく |
| 信頼関係形成の技術                         | 非言語的コミュニケーションを観察すること   |
|                                   | 患者さんのペースに合わせた関わりを取るために表情、声のトーン、速さの変化を観察                              |
|                                   | 心情というものは、必ずしも言語化されるわけではなく、表情、動作、そして口調などの非言語的な側面からも読み取ることができる         |
|                                   | 表情や動作などの非言語的メッセージから読み取っていく   |
|                                   | 患者さんが発した言葉の本当の意味を振り返ってみることで初めて分かることもある                               |
|                                   | 患者さん目線で配慮していく必要  |
|                                   | 対象者さんの気持ちを汲み取るということの難しさと、その大切さ                                       |
|                                   | 発言以外の情報を十分に観察することが精神看護において重要である                                      |
|                                   | 看護師は対象者にとって最も身近な存在   |
|                                   | ただ傍にいて、時間を共有することが信頼関係を築くうえで重要  |
| 同じ時間を過ごすことの積み重ねで関係性は作られていく        |  |
| 拒否されても時間をおいて訪室する                  |  |
| 自分らしくあろうとする患者さんの言葉に耳を傾け、支援すること    |  |
| 心の底にある不安やストレスも表出してもらおうための関係づくりも重要 |  |
| その人に合った方法を見つけていき、一緒に考えていくことが大切    |  |
| 患者—看護師関係を築くことの重要性                 | 人対人の関係性を大切に  |
|                                   | 人の力であたたかい関わりを行っていくことで、傷を癒していくことが可能                                   |
|                                   | 妄想と現実を区別することができるように関わることも大切である                                       |
|                                   | 本人の回復に向けて「人薬」の大切さを感じた  |
|                                   | 精神科において、治療の中に人薬がある   |
| 対人関係が作り出す影響力の偉大さを実感               |  |

|               |   |
|---------------|---|
|               | 患者さんと目線の高さを合わせたり  |
|               | 患者さんの気持ちを汲み取る   |
|               | 話を聴いてもらうだけでも気持ちが楽になる                                      |
|               | 患者の思いを聴ける   |
|               | 傾聴はとても大切な治療の一つになる   |
|               | 受容・傾聴・共感を意識しながら患者さんに寄り添う                                  |
| 受容・傾聴・共感の重要性  | 受容・傾聴・共感がコミュニケーションにおいては基礎的なことだが、その基礎こそが大切                 |
|               | 患者さんの訴えに耳を傾け、気持ちを理解し、一緒に考え、一緒に悩む、それだけでも看護になる              |
|               | 人とのコミュニケーションが一番の治療になる                                     |
|               | 患者の言葉を待つという関わり  |
|               | 自己一致していることが大事   |
|               | 関わりの中で感じた嬉しいという素直な私の気持ちを伝え、素直な気持ちを共感することができるようになった        |
| 患者への関心        | その人に関心をもたないと表面上だけで中身がみえてこない                               |
|               | 強みに着目すること   |
|               | 患者素直に思いを伝えてくれることも強み                                       |
|               | 服薬することができているという強み   |
|               | 自分の意思が言えるということは、患者にとっての強みである                              |
|               | 患者さんの強みが見えてくるようにもなった                                      |
|               | 関わりの中でポジティブなフィードバックを行ったり、他者のことを思いやることができるという強みがあること       |
| ストレングスに着目すること | 拒否することも一つの経験  |
|               | 患者さんが本来持っている力・強みを上手く引き出していく                               |
|               | 患者さんの生育歴や生活史に着目した上で、退院後もその人らしい生活ができるように強みを把握した上で看護することが大切 |
|               | 望んだ生活の実現は自己効力感を高め、治療意欲向上にもつながり、自分の力を自覚できる手段になる            |
|               | 自己肯定感を高めていくことに自身を大切にすることを養ったり、心を落ち着かせたり                   |
|               | 患者のレジリエンスを育てていき、エンパワメントを高めていく                             |
|               | 問題としてみていたこともプラスで捉えられるようになり、思考の幅が広がった                      |

|  |   |
|--|---|
| 自律に向けた<br>援助   | 作業療法は、セルフケア能力の維持・向上の役割を果たしていることを学んだ   |
|  | 状態や望みに合わせてセルフケア能力を高める援助<br>自分を見つめ直すことや、他の人の話も聞く中で、自分も立ち直れるという自信にもつながっていくのだと感じた                |
| ピアの存在  | 集団精神療法やピアサポーターの意義について学んだ  |
|  | 仲間がいることが大きな助けになるんだと知った  |
|  | 共通の悩みを持つ者同士が集まり、一人ではないと思えることで、断酒に踏み切ろうという自信や自覚が湧いてくる  |
|  | ピアサポーターの存在はリカバリーには欠かせないことを改めて感じることができた  |
| 役割を持つ意<br>義  | 自分に何か責任があることで役割意識がつき、所属感を得ることにつながる  |
|  | 自分の役割を果たすことで患者さんの自信につながる  |
|  | 一人一人が自分の役割に責任をもっていることは、利用者にとってやりがいを感じたり、社会的な役割にもつながる  |
| リカバリー<br>に必要<br>な支援  | 利用者さんから自分の担当していることに対して役割を遂行しなければならぬという強い責任感を持たれていると感じ、事業所で働く方にとっての社会的な役割になっている                |
| 就労する意義   | 自立した日常生活や社会生活を送るうえで就労することの大切さを考えさせられた   |
|  | 退院してからも障害者のペースで働ける事業所があったり、生活の充実を図れるデイケア等の施設があることで、同じ経験をした方と気持ちを共有できたり、本人にとって落ち着ける居場所のひとつになれる |
| その人らしさを尊重  | 私たちと何も変わらない一人のひとであることに気づくことができた   |
|  | 疾患を持っていても私たちは変わりなく、一人の人としてみるのが大切  |
|  | その方が持つ特性を理解して関わるのが重要  |
|  | 患者さんによって関わり方は違い、個別性を考えた関わりが大事   |
|  | 私が大切に考えたことは”その人らしい自立”   |
|  | その人の生きにくさを少しでも軽減し、その人らしく生きていけるよう支援することがその人の理解につながる  |
| 患者さんが本当に必要としていることは何なのか、求めていることは何なのか、この世に生きる大切な一人の人として支えていけるよう日々関わっていくのが大切である |   |
|  | 自分らしく生活でき、再発予防につながる支援をされている   |

|   |                     |  |
|---|---------------------|--|
|   |                     | その人らしく生活することができるよう本人の希望に沿った支援をしていく                                       |
| 多職種連携の実際  | 多職種連携の実際            | 1つの職種では、一人の方を支えることはできない  |
|   |                     | チームの一人として看護に取り組むことの責任を忘れてはいけない   |
|   |                     | 互いの専門性を理解し、頼ること、日々の連携を大切にする  |
|   |                     | 適切な情報を多職種に提供する役割があることを知った  |
|   |                     | それぞれの職種が専門的な知識を持って患者さんに合ったよりよい支援をしていく                                    |
|   |                     | 回復（リハビリ）を支えるための多職種チーム（MDT）による入院から退院後までの生活に必要な支援を行っており、患者さんに合った支援方法をされている |
|   |                     | 多職種と連携、協働して入院中から退院後まで継続的に支援する大切さを学んだ                                     |
|   |                     | 多職種連携が図られ  |
|   |                     | 多職種からのサポートを調整していくことが大切であるということ学んだ  |
|   |                     | 多職種連携が図られているため、個々に応じた必要な支援を受けることができる場となっていることがわかった                       |
| 患者さん自身が考えながら目標に向かって進めるよう医療者が近くで支える関わりが大切であり、常に多職種チームの中心には患者さんがいるということを考えた |                     |  |
| 精神科における安全管理   | 安全管理                | 行動制限などは患者さんの心理的苦痛を伴うことから必要最小限にし、実施時にはきちんと説明、声掛けを行っていた                    |
|   |                     | 確認が患者さんの安全を守るために重要である  |
|   |                     | どういったリスクがあるのかを考えた上で、日々の関わりの中で、不安事や思いを聞くことが大切                             |
| 地域生活を支援するために必要な社会資源の活用  | 患者さんの生活を支援する地域資源の活用 | 対象者が安心して安全に治療を続け、生活できるよう   |
|   |                     | 患者さんがどのように生活していきたいのか本人が望むものを把握したうえで個々に合わせた社会資源                           |
|   |                     | 事業所や精神科デイケアの実習を通して地域での生活と社会資源、支援についてイメージでき、学びを深めることができた                  |
|   |                     | 訪問看護や他院との連携をされており、利用者さんの異常の早期発見やよりよい日常・社会生活が送れるように支援している                 |
|   |                     | その人の目的に応じたプログラムの組み立てなどを実施し、サポートし合っていることを学んだ                              |
| 退院後を見据えてどういう支援やサポートが使用できるのか   |                     |  |

|                           |               |   |
|---------------------------|---------------|---|
|                           |               | 一人一人の退院後を支えていくことの重要性を再度実感することができました   |
| 精神疾患<br>に対する<br>正しい理<br>解 | 精神疾患の理<br>解   | 誰もが、私自身も精神疾患に罹患する可能性があることが理解できた<br>少しでも偏見な目が減るようにまずは自分が理解を深め、周囲に広めていけたらよい<br>十人十色   |
| 看護観                       | 看護観           | 「この人なら話せる」と患者さんに思ってもらえるような看護師になりたい  |
| 再発予防<br>に必要な<br>看護        | コンプライア<br>ンス  | 患者さんの薬に対する思いや受け止め方の部分を聴くということが同じことを繰り返さないようにするうえでも大切なことである  |
|                           | 人権の尊重         | 対象者を一人の人間としての権利を守り、立場を尊重した関りが大切である<br>病気の患者をみるのではなく、その人自身に注目すること<br>同じ時間を共有することの大切さを今回特に感じる事ができた<br>患者さんの思いに少しでも寄り添うことができたのではないかと感じた<br>その人の気持ちになって考えてみること<br>具体策を一緒に考えることが必要<br>治療主体が患者さんであるためには、患者さんの意思決定を促す場面をしっかりと設けたり、今後の過ごし方、治療について一緒に考えていく必要がある<br>利用者一人一人のニーズに合わせてサポートすることが必要 |
| 権利擁護                      | 患者中心の看護       |   |
|                           | 意思決定を促<br>す支援 | 患者さんが主体的に行動できるように促していくことが重要である<br>本人が納得し、自分で選択できるよう   |
| 環境とし<br>ての看護<br>師の役割      | 安心できる居<br>場所  | 家族のような温かさが自分の居場所があることへの安心感にもつながる<br>受け入れられる場所があると患者さんに思ってもらえるような関わりをしていきたい<br>自分が安心できる存在になれた<br>私自身が穏やかに過ごすことで患者も落ち着いて過ごすことができたのではないかと<br>寄り添うことで孤独ではなくなる<br>一人一人の個性や人柄を理解し、その人らしい生活が送れるような関わりや患者さんから「この人はみんな優しく好きなんです」とこ   |

の環境を心地いいと感じられる関わりをしていることから看護師も環境の一部という言葉強く実感した

会話の中での沈黙の時間を待つ時間を取ることで患者さんが発言しやすい環境を作る

思いを表出できるような環境づくりなどが治療の一環になる

精神科における治療的環境を知る

それぞれ介入の内容が異なり、対象者の症状や状態、家族や生活背景  
家族を含 家族を含めた など対象者を知り、個別に応じた援助の必要性を学んだ  
めた看護 対象理解 対象者も家族も安心して地域で暮らしているように退院前から多職  
種で連携しながら環境を整えているのだと感じた

### 1. 【疾患を理解するための知識の活用】

このカテゴリーでは＜治療内容の理解＞と＜症状の観察＞のサブカテゴリーで構成されていた。学生は「幻聴に対して、患者が不穏な様子はないか、苦痛を生じてないかを観察」し、「日々の観察の中で、些細な変化においても一つ一つに意味がある」と対象理解のためには疾患による症状の理解が重要となり、患者の表情や言動、姿勢や態度などから目に見えない精神症状の観察について学んでいた。また、「薬物療法はもちろん大切な治療」で、「作業療法においては、気分転換や覚醒の意味あいがある」と精神科における治療内容についての理解を深めていた。

### 2. 【信頼関係形成の技術】

このカテゴリーでは＜自己洞察の重要性＞＜非言語的コミュニケーションの重要性＞＜患者－看護師関係を築くことの重要性＞＜受容・傾聴・共感の重要性＞＜患者への関心＞で構成されていた。学生は看護を行う上で、基本的な患者との信頼関係を形成するために必要な、コミュニケーションの技術や受容・傾聴・共感という精神看護に必要な姿勢について、実習体験から学んでいた。

### 3. 【リカバリーに必要な支援】

このカテゴリーでは＜ストレングスに着目すること＞＜自律に向けた援助＞＜自己効力感＞＜ピアの存在＞＜役割を持つ意義＞＜就労の意義＞＜その人らしさを尊重＞というサブカテゴリーから構成されていた。学生は患者の＜ストレングスに着目＞することで、問題解決思考ではなく、慢性期や療養を支えるストレングスモデルの視点をもつことができていた。それ以外にもリカバリーに必要な視点として、当事者が＜役割を持つ意義＞や＜就労する意義＞を感じ、＜その人らしさを尊重＞したリカバリーに必要な支援を考え、学んでいた。

### 4. 【多職種連携の実際】

このカテゴリーでは、＜多職種連携の実際＞というサブカテゴリーから構成されていた。「適切な情報を多職種に提供する役割があることを知った」や「それぞれの職種が専門的な

知識を持って患者さんに合ったよりよい支援をしていく」実際をみたことで、患者に関わる食種とその専門性を知り、そのチームにおける看護師の役割について理解を深めていた。

## 5. 【精神科における安全管理】

このカテゴリーでは<安全管理>というサブカテゴリーで構成されていた。「行動制限などは患者さんの心理的苦痛を伴うことから必要最低限にし、実施時にはきちんと説明、声掛けを行っていた」「確認が患者さんの安全を守るために重要である」「どういったリスクがあるのかを考えた上で、日々の関わりの中で、不安事や思いを聞くことが大切」で構成されていた。精神科の特徴的な治療的環境についてその必要性と、それを行う際の倫理的配慮や行動制限を行う際に必要な看護について学ぶことができていた。

## 6. 【地域生活を支援するために必要な社会資源の活用】

このカテゴリーでは<患者さんの生活を支援する地域資源の活用>というサブカテゴリーから構成されていた。「訪問看護や他院との連携をされており、利用者さんの異常の早期発見やよりより日常・社会生活が送れるように支援している」や「一人一人の退院後を支えていくことの重要性を再度実感することができた」と精神疾患を抱えた対象者に医療・福祉の視点から地域生活を支援するために必要な社会資源の活用の実際を学ぶことができていた。

## 7. 【精神疾患に対する正しい理解】

このカテゴリーからは<精神疾患の理解>というサブカテゴリーから構成されており「誰もが、私自身も精神疾患に罹患する可能性があることが理解できた」や「少しでも偏見の目が減るようにまずは自分が理解を深め、周囲に広めていけたらよい」と精神疾患に対する正しい理解をすることの大切さと、それを行うことで精神疾患に対するスティグマを減らすことの重要性を学ぶことができていた。

## 8. 【看護観】

このカテゴリーからは「この人なら話せる」と患者さんに思ってもらえるような看護師になりたい」と患者さんに信頼してもらえるような看護師になりたいという看護観を養うことができていた。

## 9. 【再発予防に必要な看護】

このカテゴリーからは<コンプライアンス>というサブカテゴリーから構成された。「患者さんの薬に対する思いや受け止め方の部分を聴くということが同じことを繰り返さないようにするうえでも大切なことである」と精神疾患を抱えた患者が服薬についてのコンプライアンスを高めることが、再発予防につながることを理解できていた。

## 10. 【権利擁護】

このカテゴリーからは<人権の尊重><患者中心の看護><意思決定を促す支援>というサブカテゴリーから構成されていた。「対象者を一人の人間としての権利を守り、立場を

尊重した関りが大切である」「病気の患者をみるのではなく、その人自身に注目すること」「本人が納得し、自分で選択できるよう」と精神科医療には強制入院が認められている中で、人権を尊重するために法律上守るべき事項や日々看護実践する中で、定期的な臨床的観察を行うこと、早期に行動制限が解除できるよう看護計画を立てることや関わりの中で患者の意思を確認することの重要性を理解していた。

### 1 1. 【環境としての看護師】

このカテゴリーからは<安心できる居場所>というサブカテゴリーから構成されていた。「家族のような温かさが自分の居場所があることへの安心感にもつながる」「受け入れられる場所があると患者さんに思ってもらえるような関わりをしていきたい」と、看護師も環境の一部であるという学びができていた。

### 1 2. 【家族を含めた看護】

このカテゴリーからは<家族を含む対象理解>というサブカテゴリーから構成されていた。「対象者も家族も安心して地域で暮らしていけるように退院前から多職種で連携しながら環境を整えているのだと感じた」と実際に病院間の連携や訪問看護との連携、ケア会議等を通して、本人や家族、事業所との連携の実際を目の当たりにすることで、多職種連携の大切さや家族、本人を含めた連携の重要性を学んでいた。

## 考察

学生の学びから【疾患を理解するための知識の活用】、【信頼関係形成の技術】では、患者一看護師関係を築くうえで必要な能力は自己洞察することや非言語的コミュニケーションに意識を向けて観察すること、受容・傾聴・共感という看護するうえで必要な基本的関わりや患者へ関心を向けることの重要性が学んでいた。また【リカバリーに必要な支援】については、座学でストレングスモデルに基づき、対象者のストレングスやレジリエンスに着目した関わりの重要性について教授しているが、<ピアの存在>や<役割を持つ意義><就労する意義><その人らしさを尊重>というサブカテゴリーからもわかるように、当事者同士で話し合うことが症状に対する対処法や解決策を見出すことにつながることで、また就労することで、社会の中で役割を持つことができることで、自己の存在意義を再確認し、自己肯定感を高め、回復に向かうことができるということを学んでいた。【多職種連携の実際】、【地域生活を支援するために必要な社会資源の活用】では、患者が安心・安全に治療を続け、生活できるよう多職種が日々連携を図り、入院から退院後を見据えて必要な支援が行われていることを学んでいた。【再発予防に必要な看護】については、主に病棟実習での受け持ち患者との関わりを通して得られた学びであると考えるが、慢性期疾患を抱えた患者への再発予防に必要な薬物療法のコンプライアンス向上の必要性について学んでいた。【環境としての看護師】については、<安心できる居場所>というサブカテゴリーの中に「家族のような温かさが自分の居場所があることへの安心感にもつながる」「受け入れられる場所があると患者さんに思ってもらえるような関わりをしていきたい」というコードがある。これは、病棟での安心できる居場所だけにとどまらず、地域社会においてもデイケアや就労支援

継続事業所における利用者の安心できる居場所作りの大切さにも共通する学びであったと考える。【家族を含めた地域看護】、【精神疾患に対する正しい理解】の 카테고리では、精神看護においては家族と疎遠になっている患者や家族も精神疾患を抱えており、家族も患者とともに支援の対象となる場合もあるため、学生は患者が地域で生活するために必要な支援について家族を含めた退院後の環境を整えることが看護師及びそれ以外の多職種の役割であることを学んでいた。また、学生自身が精神疾患に対する正しい理解と啓発活動を行うことが社会の偏見やスティグマを減らすことにつながるという学びも得ていた。【精神科における安全管理】という 카테고리については、法律上強制入院が認められている精神科の特殊な治療環境の中で、なぜそのような環境で治療が行われているのか、そしてその環境の中で看護師は法律上定められている定期的な臨床的観察を行うことや、行動制限の必要性を繰り返し説明することの重要性や早期に行動制限が解除できるよう看護計画を立て、実践することの重要性を理解していた。そして【権利擁護】という 카테고리については、時間を共有し、その人自身に注目することや治療主体は患者であることを再認識し、意思決定できるよう促すことの大切さを理解していた。【看護観】については今回1コードのみであった。これは実習の学びを記載する実習まとめをデータとして取り扱ったということもあるかもしれないが、3年次の実習であることを考えると、実習での体験から自己の看護観を深められるよう看護について考える機会を捉え、臨地で看護師に自身の看護観を語ってもらうなど、学生の看護観を刺激する指導を行うことが求められると考える。

先行研究<sup>2)</sup>では精神看護学実習において最も学びが深まった内容は「患者のペースを尊重した関わり方」であり、次いで「レクリエーション療法」「患者との距離のとり方」「援助方法の理解」「自己理解」であった。今回の調査では、患者－看護師関係における対人関係能力についての学びが多かったが、【疾患を理解するための知識の活用】、【信頼関係形成の技術】、【リハビリに向けた支援】、【多職種連携の実際】、【地域生活を支援するために必要な社会資源の活用】、【精神疾患に対する正しい理解】、【看護観】、【再発予防に必要な看護】、【環境としての看護師】、【家族を含めた地域看護】、【リハビリに必要な支援】など入院中から退院後の生活に向けた支援に必要な知識や技術に関する学びであった。これは、臨床現場においても患者が地域で生活する生活者であるという視点を持ち、入院時より多職種連携や患者本人、家族を含めたケア会議を行い、地域で生活するために必要な看護を実践しているためであると考えられる。精神科医療において国の施策はすすめられており、平成29年度から「精神障害に対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指し、構築推進事業を進めている。山田ら<sup>3)</sup>は、「今後教育者として考えることは、精神障害者における様々な精神保健福祉に関する法制度の変化に柔軟に対応し、学生が障害者のための退院支援や地域での社会生活支援の視野を広げられるように学べることである」と述べている。そのためには、教員を含めた指導者が精神保健医療福祉に関する法制度の新しい変化に対応できるよう教授し、精神疾患を抱えた方々への生活者としての視点を持ち、指導が必要であると考えられる。今回の調査では、研究の同意が得られた26名の実習まとめからの分析となったため、学びの内容に偏りが生じている可能性がある。記述を意味内容の類似したものにまとめるにあたっては、学生のレポートに十分記述されていない場合もあると考えられるため、十分に表現できたものであるか検討をしていく必要がある。

## 結論

学生の実習まとめの記述を分類した結果、＜治療内容の理解＞、＜症状の観察＞、＜自己洞察の重要性＞、＜非言語的コミュニケーションの重要性＞、＜患者－看護師関係を築くことの重要性＞、＜受容・傾聴・共感の重要性＞、＜患者への関心＞、＜ストレスに注目すること＞、＜自律に向けた援助＞、＜ピアの存在＞、＜役割を持つ意義＞、＜就労する意義＞、＜その人らしさを尊重＞、＜多職種連携の実際＞、＜安全管理＞、＜患者さんの生活を支援する地域資源の活用＞、＜精神疾患の理解＞、＜看護観＞、＜コンプライアンス＞、＜人権の尊重＞、＜患者中心の看護＞、＜意思決定を促す支援＞、＜安心できる居場所＞、＜家族を含めた対象理解＞の 24 のサブカテゴリーが抽出された。それらの意味内容から学びの内容をさらに抽出した結果、【疾患を理解するための知識の活用】、【信頼関係形成の技術】、【リハビリに向けた支援】、【多職種連携の実際】、【精神科における安全管理】、【地域生活を支援するために必要な社会資源の活用】、【精神疾患に対する正しい理解】、【看護観】、【再発予防に必要な看護】、【権利擁護】、【環境としての看護師】、【家族を含めた看護】の 12 カテゴリーが抽出された。

これらの結果より学生は、精神看護特有の治療環境や安全管理に必要な法律とそれに伴う看護師の役割について学んでいた。そして、精神科医療の歴史的背景を踏まえ、患者と同じ時間を共有し、患者の意思決定を支えることの大切さや疾患の再発防止のために必要な治療へのコンプライアンスの向上に向けた援助の重要性を学んでいた。また、どの科目にも共通する患者－看護師関係を築くうえで必要な受容・傾聴・共感という基本的な姿勢の重要性や、患者の回復に向けた支援には当事者の関わりや就労の意義が患者の自己肯定感を高め回復につながることを学んでいた。また患者の地域生活を支えるために患者が入院した時点から退院を見据えて多職種連携を行い、家族を含めて患者に必要な支援を行っていることを学んでいた。

## 謝辞

本調査をまとめるにあたり、実習まとめの実習記録使用に快諾いただいた学生の皆様に感謝いたします。

## 文献

- 1) 延近久子：臨床実習指導のプロモーション（東京：ユリシス・出版部，1992）
- 2) 折山早苗：精神看護学実習における「学び」の内容分析と看護過程の有効性．日本看護研究学会雑誌 Vol.30, No.1 : 143, 2007
- 3) 山田浩雅：精神科デイケア・小規模作業所における地域精神看護学実習の学び．愛知県立大学看護学部 紀要 Vol.16 : 23-30, 2010